

川崎市障害者地域自立支援協議会 専門部会(相談支援) 活動報告

障害者生活支援センターわかたけ

別府 政行

◆ 会議開催

| | 日時・場所 | 会議の内容 | 参加人数 |
|------|--|--|------|
| ・第1回 | 平成24年8月31日(金)9:30~11:30 市役所第3庁舎 15階 特別会議室 | 部会長・副部会長の選任、部会の役割分担、報告事項、部会で検討すべき課題と進め方や形式などについて | 10名 |
| ・第2回 | 平成24年9月19日(水)9:00~11:30 ちどり 1階 第1・2会議室 | 報告事項、グループ別検討(研修担当・相談支援ガイドライン担当) | 11名 |
| ・第3回 | 平成24年10月19日(金)14:00~16:30 ちどり 3階 第1・2会議室 | サービス等利用計画等書式についてのアンケート、グループ別検討(研修担当・相談支援ガイドライン担当)・報告 | 10名 |
| ・第4回 | 平成24年11月27日(火)9:00~11:30 ちどり 1階 第1・2会議室 | 相談支援プラットフォーム、グループ別検討(研修担当・相談支援ガイドライン担当)・報告、全体会議での報告と意見について | 10名 |
| ・第5回 | 平成24年12月21日(金) 14:00~16:30 ちどり 1階 第1・2会議室 | グループ別検討(研修担当・相談支援ガイドライン担当)・報告など | 9名 |
| ・第6回 | 平成25年1月15日(火)9:00~11:30 ちどり 1階 第1・2会議室 | 相談支援シンポジウム、サービス等利用計画の見直し、相談支援従事者研修、相談支援ガイドブック、その他 | 9名 |
| ・第7回 | 平成25年2月8日(金)9:00~13:30 ちどり 1階 第1・2会議室 | 研修の実施予定、相談支援ガイドライン、サービス等利用計画の書式の見直し、PCソフトの導入、その他 | 10名 |
| ・第8回 | 平成25年3月12日(火)9:00~11:30 ちどり 1階 第1・2会議室 | PCソフト(ミラクルQ)のデモンストレーション | |
| ・第9回 | 平成25年3月22日(金)9:00~11:30 市役所第3庁舎 | 今年度のまとめと次年度以降に向けての方針 | |

◆ 委員及び事務局

委員(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 所属・職名 | 役割 | 担当 |
|---------|---|--------|-----|
| 赤塚 光子 | 川崎市障害者地域自立支援協議会会長 | | ガ |
| 明田 久美子 | 川崎市精神保健福祉センター担当課長 | | 研 |
| 安保 博史 | 川崎市れいんぼう川崎在宅支援係 | 研 リーダー | 研 |
| 大山 樹 | 高津区役所保健福祉サービス課障害者支援係 | | ガ |
| 小島 久美子 | 北部リハビリテーションセンター館長 川崎市障害者地域自立支援協議会委員 | | 研 |
| ◎富永 健太郎 | 田園調布学園大学人間福祉学部講師 | 部会長 | 研・ガ |
| 西 信司 | 川崎西部地域療育センター | | ガ |
| 萩原 利昌 | 川崎市健康福祉局障害保健福祉部施設再編整備担当部長 | | 研・ガ |
| 船井 幸子 | 障害者生活支援センターらいむらいと 川崎市障害者地域自立支援協議会副会長 | ガ リーダー | ガ |
| ○別府 政行 | 障害者生活支援センターわかたけ | 副部会長 | 研・利 |
| 三橋 良子 | 百合丘地域生活支援センター「ゆりあす」 | | 研 |

◎会長 ○副会長

事務局

| 氏名 | 所属・職名 | | |
|-------|------------------------|----|-----|
| 中古 翠 | 障害者生活支援センターらいむらいと | 記録 | 研・利 |
| 広瀬 潤 | 障害者生活支援センターこぶし | 記録 | ガ・利 |
| 小林 佳子 | 川崎市健康福祉局障害計画課自立支援係長 | | 研 |
| 角野 孝一 | 川崎市健康福祉局障害計画課自立支援係 | | 研・ガ |
| 佐藤 雅美 | 川崎市市民・こども局こども本部こども福祉課 | | ガ |
| 遊座 大輔 | 特定非営利活動法人川崎市障害福祉施設事業協会 | | |

※研・・・研修担当 ガ・・・ガイドライン担当 利・・・利用計画書様式

◆ 専門部会発足当時の出発点

障害者自立支援法及び児童福祉法の改正により、平成24年4月から相談支援が大幅に強化された。川崎市においては、計画相談支援及び障害児相談支援の対象者を平成26年度までの3年間で約8千人まで拡大しなければならない。相談支援専門員の養成・確保及び相談支援の質の向上のための取り組みが急務である。そのため、以下の内容について専門部会で重点的に検討する必要に迫られた。

① 平成23年度に研修企画部会で作った研修体系に基づく研修の企画・実施

- ・ 今年度は、10月3日に相談支援初任者研修が終了し、1月から現任研修が始まるため、できれば10月～12月の間に実務研修Ⅰ・Ⅱを実施したい。
- ・ 今年度は、主任相談支援専門員試験が2月に実施予定のため、実務研修Ⅲは実施せず、代わりに単発の研修をいくつか行うこととしたい。
- ・ 来年度以降は、研修の実施時期が集中しないように計画的な実施を進めていきたい。そのためには、年度内計画を作成し、年度初めから実施できるようにしたい。

② (仮称) 相談支援ガイドラインの作成

- ・ 平成25年4月以降に実際に相談支援センターが稼働してするのにあわせて、今年度は骨格づくりを行う。平成25年度内に完成できるようにしていきたい。
- ・ 計画相談や障害児相談支援には該当しないような相談支援の実践例を掲載することで、これまでの相談支援の実績を残していきたい。
- ・ 相談支援専門員の質の向上のため、参照できるようなガイドラインを作成し、将来的には、初任者研修のテキストとして使用できるようにしたい。

③ サービス等利用計画・障害児支援利用計画等の様式の検討

- ・ 平成24年4月からスタートしている計画相談等の様式について、国の示したものを使用しているが、川崎版の利用しやすいものを作成したい。
- ・ 平成25年度から新しい様式としていきたいので、優先順位は低い。

◆ これまでの議論で実施できたこと

① 平成23年度に研修企画部会で作った研修体系に基づく研修の企画・実施

- ・ 相談支援従事者研修の体系を「川崎市相談支援従事者研修事業実施要綱」に明確に位置付け、国の定める初任者研修と現任研修以外に「実務研修1・2・3」を位置づけた。今年度は、主任相談支援専門員が不在のため、実務研修3は単発の研修を複数行うようにした。
- ・ 実務研修1は、平成24年11月・12月の3日間で実施した。講師はかながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク(KCN)の岡西氏。受講者は16名であった。

- ・ 実務研修2及び3については、今年度は単発での研修実施となった。講師依頼予定の方のご都合などもあり、実施までにあまり時間がなかったことと年度末での集中した研修の開催となったため、参加者の募集方法に課題が残った。
- ・ 受講対象者を相談支援専門員に限定せず、サービス管理責任者にも参加していただくことで、全体のレベルアップにつなげていきたいと考えている。

② (仮称) 相談支援ガイドラインの作成

- ・ 全体の構成を決定していく過程で、ライフステージを通じて～という言葉盛り込むことで、児童も対象にして、相談支援の役割・基本に立ち返れるように構成した。国から示された制度と川崎市独自の取り組みを確認できるものにしていく。
- ・ 導入の部分で今までの川崎市独自の取り組みを入れて、相談支援はこのように進めていくものをお示ししたいと考えた。
- ・ 障害者権利条約や障害者基本法等を踏まえて、川崎市が目指すものについて記述する。
- ・ その他、「相談支援の実践例」として、7分野の実践を紹介するようにした。
- ・ 現在、原稿については、依頼先は決定しており、原稿依頼に向けて準備中。

③ サービス等利用計画・障害児支援利用計画等の様式の検討

- ・ サービス等利用計画を作成した方々にアンケートを実施して、様式の使い勝手について、課題を整理した。
- ・ 市の委託を受けた相談支援センターでは、4月以降は書式を統一しなくてはならない。PCソフトミラクルQの導入について検討を行った。
→業務日誌を中心として、相談者のフェイスシート、相談支援、会議記録などを簡単に作成し、データ化し蓄積できる。サービス等利用計画などの作成も可能で、将来的には、社会調査としてデータの集計や分析が可能となり、川崎市の相談支援の傾向も瞬時にらせるようになる(月3,000円程度)

◆ 今後の議論・活動の方向性

平成25年度の相談支援体制の再編整備を受けて、地域として各区を対象とした相談支援が展開されていく。その中で、地域の課題整理を中心に、地域づくりや地域ネットワークの構築を進めていくことになる。

今年度自立支援協議会の専門部会として実施してきた内容は、それらの活動がスムーズに進められるように人材育成に着目した取り組みであった。研修体系の整備・企画・実施と相談支援ガイドブック作成準備及び様式の見直しという部会としての取り組みは、今年度で終了となる。

しかしながら、相談支援ガイドブックと様式の見直しについては、次年度においても形として残す必要があるため、メンバー編成を考慮しながら次年度も継続していきたい。

その他、サービス等利用計画等の作成対象である8,000人分の作成については、平成26年度中に完了するための方法や体制整備も考える必要があるため、平成25年度も早い段階で専門部会(相談支援)の立ち上げを行いたい。

くらし（短期入所）部会について

障害者生活支援センター柿生

野原 篤

1、平成24年度 くらし（短期入所）部会設置経緯・目的

・くらし（短期入所）部会設置経緯

各区の自立支援協議会で進めている障害がある方への支援上の様々な課題の整理から、短期入所利用の使いづらさによって障害のある方やその家族が安心して地域生活を送ることに支障があることが具体的な事例を通し明らかになりました。川崎市では以前から、短期入所の使いづらさに関連する事について、利用者やその家族からも意見や要望が事業者及び川崎市にあがっていたこともあり、今年度のくらし部会の取組テーマとして、より具体的に原因を解明し解消をしていくことが市自立支援協議会において共有されました。

・くらし（短期入所）部会の目的

「短期入所利用に使いづらさを抱えている当事者・家族からの声を頂きながら、その原因を解明し解消すること」

2、くらし（短期入所）部会活動内容

○部会開催日

- 【準備会】 平成24年11月2日（金）
- 【第1回】 平成24年12月5日（水）
- 【第2回】 平成24年12月25日（水）
- 【第3回】 平成25年1月29日（火）
- 【第4回】 平成25年2月20日（水）
- 【第5回】 平成25年3月12日（火）

○短期入所制度の現況調査

1 短期入所事業者への実態調査

調査方法：メールにてアンケート用紙を送信しメール回答の方法で集約

2 利用者意向調査：アンケート

調査方法：日中通所事業所及び特別支援学校へアンケート票を送付し、各事業所から利用者又はその家族にアンケート票を渡して頂き、回答したアンケート票を送付元の事業所又は学校に提出のうえ、事務局へ未開封のまま回答を転送する方法を採用

3 利用者意向調査：インタビュー

調査方法：アンケート調査を補完するため、障害のある本人、障害のある方の家族、障害のある方に関係する団体等を対象としてインタビュー調査を実施
さらに、必要に応じて個別調査も実施。

| インタビュー先 | 参加者 | 日時 | 訪問者 |
|-------------------|-----|-------------------|--------------|
| グランドデザインを考える会 | 7名 | 1月16日 11:00-12:30 | 野原 |
| 川崎市重症心身障害児者を守る会 | 3名 | 1月16日 11:00-12:30 | 滝口 |
| 豊かな地域療育を考える連絡会 | 10名 | 1月17日 10:45-12:00 | 淵上副部長、山口 |
| 県立中原養護学校PTA | 11名 | 1月18日 10:35-12:35 | 雨宮部長、山口 |
| 生活訓練支援センターデイケア利用者 | 3名 | 1月22日 10:15-11:30 | 関野委員、吉見委員 |
| 知的障害者親の会 | 17名 | 1月22日 11:30-12:30 | 淵上副部長、山口 |
| くさぶえの会 | 11名 | 1月24日 11:15-12:40 | 山口、滝口 |
| もみの木寮ショートステイ利用者 | 3名 | 1月24日 14:00-15:10 | 関野委員、山口 |
| 肢体不自由児親の会 | 11名 | 1月25日 11:00-12:30 | 雨宮部長、関野委員、滝口 |

4 先行事例の調査

(1) グループホームにおいて空床型事業を活用したショートステイ施設

場所：千代田区立障害者福祉センターえみふる（千代田区神田駿河台2-5）

調査日：平成25年2月13日（水）

(2) 医療的ケアが必要な当事者も利用可能な多機能型施設のショートステイ

※生活介護・共同生活介護・短期入所

場所：社会福祉法人 訪問の家「朋」 多機能型拠点「郷」さと

（横浜市栄区桂台中4-7）

調査日：平成25年3月5日（火）

第1回くらし（短期入所）部会

日時：平成24年12月5日（水）9時～12時

場所：ちどり

- 1 会長・副部長の選任
- 2 部会の役割分担
- 3 部会の進め方・形式等について
- 4 報告事項

- (1) 国における短期入所事業の方向性
- (2) 川崎市における短期入所事業の現況と方向性

5 協議事項

- (1) 短期入所事業所からの現況報告
- (2) 当事者・保護者へのインタビューの進め方

第2回 くらし（短期入所）部会

日時：平成24年12月26日（水）13時30分から17時45分

場所：ちどり

1 具体的な今年度の取組の到達目標

短期入所に係る利用者及びその保護者のニーズに関する実態把握を客観的かつ体系的に整理する。量的な把握と質的把握の両面からアプローチして表出していく。

また、実態把握の結果表出されたニーズから今後あるべき方向性を見出す。

2 実態把握の方法

(1) 利用意向調査（アンケート調査とインタビュー調査）

※インタビュー調査は、アンケート調査内容を掘り下げていく『調査の深度』を深める観点と、アンケート調査では把握しきれない多様な方々の実状を捉える『調査の幅』を広げていく観点の2点から行う。グループ・個別インタビューを組み合わせ実施していく。

(2) 実態把握の手順

アンケート調査依頼先：市内全通所施設・特別支援学校

通所施設74施設 約2600人の対象者

地域活動支援センター59施設 約1000人の対象者

特別支援学校6校 約540人の障害児の保護者

(3) 団体ヒアリング先について

第3回 くらし（短期入所）部会

日時：平成25年1月29日（火）13時30分から16時50分

場所：ちどり

1 利用者意向調査結果の報告について

(1) アンケート調査票回収状況（中間発表）

146施設に配布し114施設からの返送があった。（中間回収率43.8%）

回収した調査票のデーター入力を行っていく。

(2) インタビュー調査結果

9団体にインタビュー調査を実施し、必要に応じて個別調査も実施。

2 短期入所を必要とする人への支援方法について（今後の方向性）

(1) アンケート調査から明らかになってきたニーズや課題

- ・短期入所を「知っている」人は6割に留まり、特に精神障害は36%と認知度が低い。
- ・家族（介護者）の休息のための利用が3割と最も多いが、「希望どおり利用できていない（希望日の変更を含む）」人は6割で、特に医療ケア有の場合8割と高い。
- ・申込方法（直接電話）、地域的な偏り、送迎等、多くの課題があり使いづらい状況。

(2) インタビュー調査から明らかになってきたニーズや課題

- ・受け入れ枠が少なく、緊急時ですら使えなかったという多数の声。
- ・特に医療ケア有が厳しい。北部に1施設のみという状況をなんとかして欲しい。
- ・相談できる人の確保、利用調整や情報提供の仕組みづくり、送迎等、要望は切実。
- ・身近な地域で、普段から支援関与がある職員が対応してほしい（通所事業所の活用）

第4回 くらし（短期入所）部会

日時：平成25年2月20日（水）13時30分から16時30分

場所：ちどり

1 アンケート調査・インタビュー調査の結果等の詳細報告について

- ・通所施設・地域活動支援センター・特別支援学校（合計2010人、回収率47%）
- ・アンケート項目ごとの結果について
- ・自由記述について（実際の使いづらさについて、当事者・保護者から頂いた記載内容）
- ・延長支援に関する通所施設向けアンケート結果について（51施設中39施設から回答）
最大の対応した時刻（夜間帯）・利用実績・利用方法等
- ・千代田区のショートステイ施設訪問報告
※グループホーム併設のショートステイ事業所
- ・今後の検討（まとめ）の方向性について

第5回 くらし（短期入所部会）

日時：平成25年3月12日（火）9時から12時20分

場所：ちどり

1 部会検討・調査のまとめについて

- ・（案）障害のある方の短期入所利用に係る調査・検討報告取りまとめについて
- ・医療的ケアが必要な当事者も利用可能な多機能型施設のショートステイ
社会福祉法人 訪問の家「朋」・横浜市多機能型拠点 「郷」さと 調査報告
- ・現況調査を踏まえた検討について
論点整理

- (1) 限りある資源でどのようにベッドコントロールしていくか？
- (2) 医療ケアが必要な人の対応をどうするか？
- (3) 別の支援方法をどのように考えるか？

- (4) 資源を拡充していくにはどうするか？
- (5) 短期入所利用に係る送迎について
 - ・(案) 障害のある方の短期入所利用に係る調査・検討報告とりまとめ
自由記載のまとめ方について
 - ・その他
 - 平成 24 年度川崎市障害者地域自立支援協議会全体会でのくらし（短期入所）部会報告について
 - 平成 24 年度川崎市障害者地域自立支援協議会活動報告書専門部会報告について

○まとめと今後の課題

- (1) 「緊急」の捉え方、自立のための訓練、レスパイト等の整理
 - ・何が緊急なのか？
 - ・誰が判断するのか？
- (2) ベッドコントロールの仕組みづくり
 - ・申し込み方法の検討
 - ・機関相談がコントロールを担う可能性の検討
 - ・施設間で顔の見える関係づくり（空き情報はネットではなく）
- (3) 利用者情報のインテークのあり方
 - ・登録方法は？ 誰がインテークを行うのか？
 - ・施設が知りたい利用者情報とは？ 受け入れに必要な共通帳票とは？
- (4) 資源を拡充するには？ 特に医療ケアが必要な人の対応は？
 - ・訪問看護師との連携、介護職による医療的ケアの可能性
 - ・どのような条件ならば、通所施設が受け入れ（延長）可能なのか？

●くらし（短期入所）部会委員

| | 氏名 | 所属 |
|----|---------|-------------------|
| 1 | ◎雨宮 由紀枝 | 日本女子体育大学体育学部教授 |
| 2 | ○淵上 正道 | 川崎授産学園生活支援センター |
| 3 | 荒井 恒夫 | 障害者生活支援センターようこう |
| 4 | 新井 通浩 | 川崎市れいんぼう川崎 |
| 5 | 山本 望 | |
| 6 | 伊藤 忠彦 | 障害者等生活施設桜の風 |
| 7 | 橋本 和弘 | |
| 8 | 浮谷 祐士 | 障がい者支援施設みずさわ |
| 9 | 北嶋 緒月 | 川崎市柿生学園 |
| 10 | 國信 勝裕 | ソレイユ川崎 |
| 11 | 今野 純子 | |
| 12 | 酒井 路子 | 障害者相談支援事業所 つくし |
| 13 | 島田 珠美 | 川崎大師訪問看護ステーション |
| 14 | 古川 真理 | |
| 15 | 関野 岳史 | 川崎市障害計画課施設支援担当 |
| 16 | 高松 信 | たかつ生活支援センターまんまる |
| 17 | 谷 みどり | サポートセンターロンド |
| 18 | 寺下 敏幸 | 川崎授産学園 つばき寮 つつじ工房 |
| 19 | 野村 謙二 | しいのき学園 |
| 20 | 本間 佳 | ライブリー |

◎会長 ○副会長

●事務局

| | | |
|---|-------|----------------|
| 1 | 滝口 和央 | 川崎市障害計画課計画推進担当 |
| 2 | 野原 篤 | 障害者生活支援センター柿生 |
| 3 | 山口 孝子 | 川崎市障害計画課自立支援担当 |

こども部会について

川崎市市民・こども局こども本部こども支援部こども福祉課
佐藤雅美

1 こども部会設置の経緯・目的

川崎市では、障害児を担当する福祉部局と教育委員会が連携して、「発達障害特別支援連携会議」を設置し、発達障害児支援の充実のための検討を継続してまいりました。

また、先般の障害者自立支援法の一部改正に伴い、障害者自立支援協議会の設置が法定化され、役割が明確に規定されるとともに運営の充実が求められるところとなりました。さらに、児童福祉法の大幅な改正も相まって、障害児支援の充実を促進するための障害児部会の設置が必要な状況となりました。加えて、平成23年度中に行われた第3次かわさきノーマライゼーションプランの改定に際しても、全市的に検討すべきテーマについては専門部会を設置することと位置付けられ、また、障害者施策推進協議会からも自立支援協議会における障害児の部会の必要性が指摘されました。

これらのことから、障害のあるこども（気になる段階を含む。）の発達の促進及び自立と社会参加の支援を目的として、「こども部会」を設置しました。こどもの障害の状態及び生活の実態等に応じて、障害のあるこども本人及び家族の意見をできる限り尊重しながら、関係機関が有機的に連携することで、総合的な支援につなげていきたいと考えています。

2 こども部会活動内容

(1) 平成24年8月～平成25年3月まで（他、別日程で行ったグループ活動あり。）

【準備会】8月31日（金） 自己紹介、川崎市障害者地域自立支援協議会の体制及び専門部会について確認

【第1回】10月4日（木） サポートノートのページ検討及び課題抽出

【第2回】12月5日（水） サポートノートグループと課題整理グループで検討

【第3回】1月29日（火） サポートノート試行に向けての準備及び課題整理

【第4回】3月7日（木） 平成24年度の取組総括

(2) 平成24年3月28日（木）第4回障害者地域自立支援協議会連絡会議「こどものくらし in かわさき ～かわさきっ子のくらしをみんなで考える～」登壇

平成24年度は、サポートノートの試行と課題整理の2つをテーマに活動を行いました。サポートノートとは、「今までに何回も同じことを聞かれて困った。」「引継ぎが不十分で、適切な支援方法が分からない。」といった現場で生じている課題を解決するために作成された1冊のノートです。本人に関する情報をまとめるもので、本人又は家族が作成し、入学、進級、サービス利用時又は就職時等に活用します。部会内で所属機関や立場の多様性を生かして議論を重ね、部会外からの意見も聞きながら書式を改善してまいりました。さらに良いものにするために、今後は本人及び家族に試しに使ってもらった感想等も反映します。

また、車椅子を利用している委員や親の会の委員等からの意見も含めた課題整理を通して、障害のあるこどもをとりまく課題の多様さ及び複雑さ等があらためて浮き彫りになりました。18年という短い「こども」でいる期間の中で著しく変化するライフステージで

は、直面する課題も多岐にわたります。本人を取り巻く課題、親が抱える課題、支援者や相談を受ける側が直面する課題等に分けられます。特に今年度は、「相談がどこへ行っても進まないで途切れてしまう。」「どこに相談すればいいのか分からない。」といった声を基に、相談体制に関する課題を中心に整理し、実際に現場で「苦労」してきたという声も生かしていきました。課題を課題で終わらせず、こども本人や家族が安心して社会生活を送ることができるような支援につなげられるように、今回形になったものを今後の検討に活用していきます。



こども部会 構成員

| | 所属 | 氏名 |
|----|---------------------------|--------|
| 1 | ひばりの会 | 相澤 寿美子 |
| 2 | 川崎市発達相談支援センター | 阿佐野 智昭 |
| 3 | 田島養護学校保護者会 | 大澤 清美 |
| 4 | (福)らぼおるの樹(宮前区こども部会委員) | 大森 裕子 |
| 5 | 麻生養護学校 | 岡安 玲 |
| 6 | 高津区こども支援室 | 荻原 恭子 |
| 7 | ソレイユ川崎相談支援事業所(麻生区こども部会委員) | 小松 江美 |
| 8 | 川崎市民 | 小峰 慶也 |
| 9 | ◎田園調布学園大学教授 | 鈴木 文治 |
| 10 | 川崎市中中部地域療育センター | 地村 明子 |
| 11 | こども本部こども家庭センター | 塚崎 みゆき |
| 12 | 田島養護学校タイムケアセンター | 西巻 奈美 |
| 13 | ○川崎市自閉症協会 | 花澤 恭子 |
| 14 | 総合教育センター塚越相談室 | 宮川 淳子 |
| 15 | 川崎市幼稚園協会加盟園 | 山崎 篤子 |
| 16 | 主任児童委員 | 吉垣 君子 |
| | (事務局) 障害者生活支援センターようこう | 大場 幸 |
| | (事務局) 障害者生活支援センターふじみ | 北嶋 寛子 |
| | (事務局) 川崎市健康福祉局障害計画課 | 鷲見 卓也 |
| | (事務局) 川崎市市民・こども局こども福祉課 | 山口 佳宏 |
| | (事務局) 川崎市市民・こども局こども福祉課 | 笹島 忠幸 |
| | (事務局) 川崎市市民・こども局こども福祉課 | 佐藤 雅美 |
| | (事務局) 川崎市障害福祉施設事業協会 | 遊座 大輔 |

◎会長 ○副会長

川崎市地域自立支援協議会 <課題整理ワーキンググループ（仮称）>の設置について

○目的

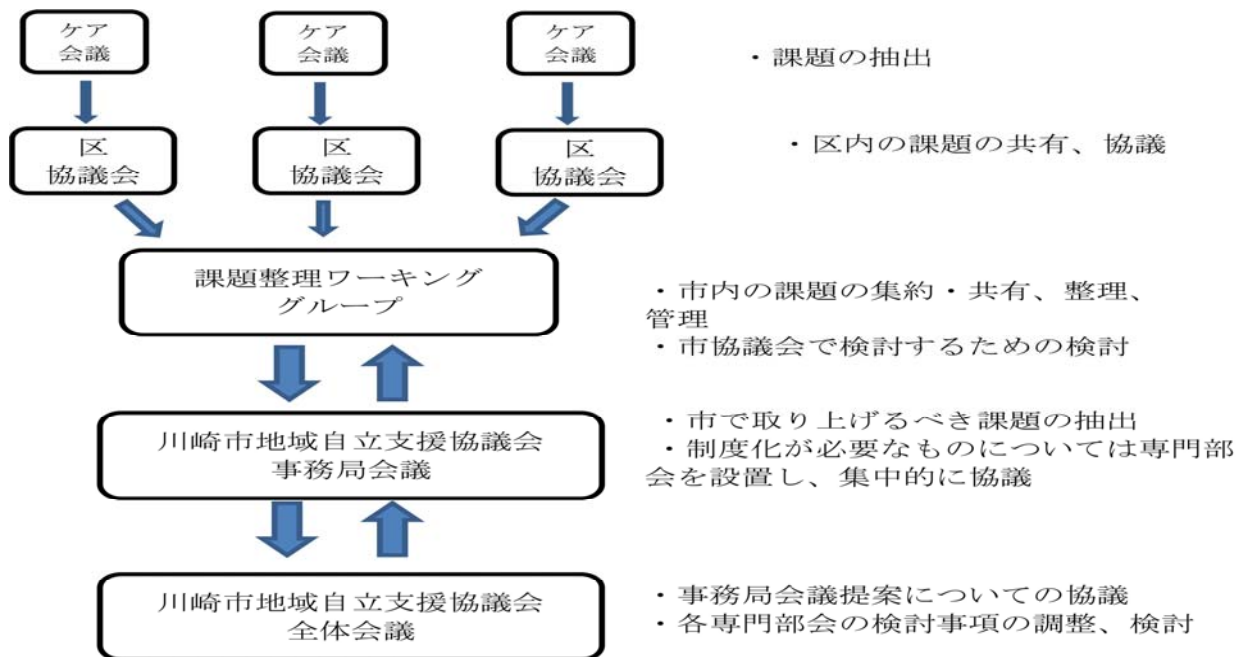
- ・課題整理表をもとに区協議会でどのような着目点でどのような活動を行っているのか、事務局課題整理ワーキンググループ（仮称）を中心に整理し、全体化していく。
- ・また、市協議会で検討すべき課題を整理していく。

○構成員

- 事務局から2名（住舎・和田）
- 各区からの代表1～2名

○内容

- ① 各区協議会で抱えている困り感や課題を市全体で共有する。
- ② 区の課題を集約し、市協議会として検討する事項を協議する。
- ③ 表出されている課題をどう解決に向けて整理していくか交通整理をする。
- ④ 新しく表出された課題の整理と管理を行う。



○会議の開催について

- ・5月の各区協議会で、各区から代表者1～2名を選出。
- ・5月末に構成員の決定。
- ・年4～5回程度（1時間半）

※ 第1回 課題整理ワーキンググループ（仮称）

日時：6月7日（金）9：00～10：30

場所：なかはら基幹相談支援センター

川崎市地域自立支援協議会 連絡会議ワーキンググループの設置について

・目的

連絡会議についてはこれまで年3～4回、その時々の方策の動向等に合わせたテーマを設定し、支援経過の報告や有識者の講演、市民や障害を持つ方々からの意見を伝える場として開催してきました。今年度より、原則として自立支援協議会構成員及び市民等が参加対象となりましたが、年間を通してどのようなテーマを取り上げていくか、その選定と企画を行います。

・構成員

事務局会議メンバー

小川（さいわい基幹相談支援センター）

栗野（たかつ基幹相談支援センター）

淵上（あさお基幹相談支援センター）

・内容

アンケートや各区自立支援協議会からの意見を基にしたテーマの選定、スケジュール設定、講師等の選定、必要機材の調達、広報活動。

・平成25年度の連絡会議の開催予定について

第1回 7月10日

第2回 9月30日

第3回 11月29日

第4回 2月14日

2回目以降のテーマは各区自立支援協議会や市自立支援協議会連絡会議においてテーマの募集を行います。

・第1回連絡会議の開催について

7月10日（水）13：30～生涯学習プラザ 難病を持つ方の支援をテーマとします。

国の動向、市の取り組み、当事者2～3名からの報告を行う予定です。

広報

目的

- 広く市民に自立支援協議会の存在をアピールする。
- 自立支援協議会の話合いの内容をわかりやすく伝え関心をもってもらう。

構成員

事務局より3名（障害計画課・野原・牧田）

内容

- ・川崎市自立支援協議会のパンフレットの作成
（配布方法、配布先、発行部数等の検討）
- ・活動報告（ホームページ更新・管理）
- ・各区広報担当者との連携
年に数回会議を行い区での取り組みの確認や情報共有を行う。